

産業 10年連続の経常増益

純利益も5年連続最高

イフジ産業(株)藤井宗徳社長―本社・福岡県粕屋町)は5月7日、2024年3月期(23年4月1日～24年3月31日)の連結決算を公表した。売上高は前期比17・3%増の245億300万円、営業利益は12・1%増の17億6600万円、経常利益は12・0%増の18億900万円、当期純利益は43・0%増の15億9700万円。経常利益は10年連続の増益、当期純利益も5年連続の最高益を記録した。

液卵関連事業の販売数量は、上期に極度の鶏卵不足となり、得意先の食品メーカーが調達への懸念から液卵の使用量を減らしたことなどで5・4%減となった。ただ人件費や光熱費などの上昇や原料仕入れ価格の高騰、さらに得意先の要請を受けて安定供給に努めるべく輸入卵を含む原料を買い付けたことに伴い販売価格の改定を進めたことで、液卵売上高は前期比19・7%増の219億7100万円、ゆで卵や茶碗蒸しベースなどの加工

億5100万円、製商品には3億4900万円の評価損を計上したことで売上原価が増加したが、価格改定とともに生産効率や歩留まりの向上など様々な施策を講じた結果、11・7%増の16億8600万円となった。

調味料関連事業の売上高は、価格改定のほかグループ内での卵白プロテインの委託加工や健康食品などの付加価値商品向けの販売増などで17・9%増の14億7900万円、セグメント利益は28・3%増の7000万円となった。

25年3月期については、今年に入って液卵需要が前年を上回り、回復傾向にあるため、販売数量は前期より増加すると見込んでいるものの、鶏卵相場が前年より下落しているため、連結の売上高は前期比16・0%減の205億8200万円、純利益も前期に特別利益を計上した反動で14・4%減の13億6700万円と予想。鶏卵の仕入れ数量確保や原価高騰に対応した適正価格での販売、さらなる生産性向上により、営業利益は12・1%増の19億7900万円、経常利益は9・2%増の19億7500万円と、いずれも過去最高の更新を見込んでいる。

調剤関連事業の売上高は、価格改定のほかグループ内での卵白プロテインの委託加工や健康食品などの付加価値商品向けの販売増などで17・9%増の14億7900万円、セグメント利益は28・3%増の7000万円となった。